

会員便り

佐伯歴史歌

小野 ミヤ子

(会員 佐伯市向島二丁目)



夫亡き後、久し振りに大掃除をしました。

古い本の中にとじ込められた佐藤蔵太郎さんの本で、私の生まれた年のもので、吹浦の母に当時の出来事を聞

いておりましたので、その時代の事が最後の部分に記されていて拝読し、佐伯の当時の様子を垣間見る事ができました。

昭和十四年代に豊国史談会発兌(発刊)とあり、この時代から史談会はあったんですね。

会員の皆様に、ぜひ読んでいただきたいと思います。

日野浦峠

浦代浦から日野浦(鶴見町)へ行く道は全長約二キロの峠道。峠の標高約二四〇メートル。峠は登山には絶好の場所。昔は小学校の遠足等によく利用されていた。峠には一本松があり、米水津側は元越山を眺望し、浦代浦集落と米水津湾は一幅の絵のようである。目を佐伯湾に移すと、渺渺たる佐伯湾の中に小さくぽっかりと竹島が浮き、はるか彼方の豊後水道には「水の子灯ひかり」が白く浮んでいる。

昭和の初め、海軍の連合艦隊が佐伯湾に雄姿を見せていたころ、生徒は先生に引率されて、よくこの峠に来たものであった。お寺の和尚が葬式などに行く時は、かごに乗ってこの峠を越していた時代もあったという。鶴御崎トンネルが開通した後は、この道を通る人は少なくなつた。〔米水津村誌〕